

聖語藏経卷紀年銘集成 (一)

凡例

一、本稿は現在正倉院に蔵する聖語藏経卷(伝来を共にした雑書を含む)のうち、奥書等の紀年銘を有するものについて、その銘文を年次順に排列し、参考として書誌的事項を併せて掲げたものである。従って排列順は経卷の書写年代の先後を示すものではない。

一、本稿の収録対象としたのは、現在調査済の経卷であり、その内訳を『正倉院聖語藏経卷目録』(以下『目録』と略称)に拠って示せば、

第一類(隋経)・第二類(唐経)・第三類(天平十二年御願経)・第四類(神護景雲二年御願経)・第五類(甲種写経)・第七類(寛治版)・第八類(宋版)・第九類(甲種版経)・第十類(乙種版経)・第十一類(雑書(其他)の全部、及び第六類(乙種写経)第一号~第一八七号大般若経卷二二五まで)

である。また、紙背文書類は対象から除いている。未調査分については、おって適当な方法で発表を期することとした。

一、本稿では、年次が年号まで明記されていることを採択の条件とした。年号を欠いたり、干支のみの年次のもの、及び中国年号の銘文は別途一括して発表する予定である。

一、経卷の標題は『目録』に拠り、類別・号数・名称・数量(一巻の場合略す)の順に示し、便宜通番を冠した。

一、銘文はその内容によって、奥書・識語・願文等の別を注した。

一、書誌的事項の記載は一定の形式に従い、下記の順序に拠ることを原則とした。

(1)品質・装幀(紙本墨書・卷子装の場合は記載省略) (2)完欠(首尾完の場合は省略) (3)標紙・軸 (4)料紙(紙質は原則として省略したが、天平十二年御願経・神護景雲二年御願経等に用いられている麻紙については注記した)・一紙の縦横寸法(完全一紙、長さの単位は以下全て厘) (5)界線(墨界の場合記載省略)・界高・界幅 (6)一行字数 (7)印記(有る場合のみ) (8)訓点等(有無のみ) (9)外題・内題・尾題(標題と異なるもののみ) (10)その他

ただし項目によっては、該当する事項が存在しない場合無記載としたり、特殊な例についてのみ記載する場合がある。

なお、天平十二年御願経の願文については、これを巻末に掲げる経卷は極めて多数にのぼるため、その一々については書誌的事項を記すことができなかった。一巻毎の願文の有無については『目録』(『昭和法宝目録』に収められている)に就かれない。

一、標紙・軸に関する記載に新補・修補とあるものは、全て明治以降当所の修理にかかるものである。また原標の語は確実と思われる場合のみ用い、不明確な場合には旧標と表記する。

一、銘文の組版に当っては、原本の体裁に近づけることを旨とした。その他活字翻刻に際しての欠字・別筆等の指示は通用の例にならう。

一、本号には、(一)として平安時代以前に属するものを挙げた。なお本稿整理に当っては、鈴木奈南・首藤靖子・玉林悦子の各氏の協力を得た。

(杉本一樹)

2 甲種写経 一五 維摩詰経 卷下

(奥書)

盖聞陰陽无像能成万物和気変化並一空門此則借方而示不方方

真自以不方故今西方浄土涅方

行之黒土基菩提之白磔以此敬

写維摩経三軸斯依善因資己

丑歳八月廿六日子時過往云者

穂積朝臣老此君永逝一期阿般

不願親屬所以生安養界同處欲

相願共諸衆生往生安楽国

天平勝宝二年四月十五日

(七五〇)

新補標、黒漆棒軸、黄麻紙一七紙、縦二六・二、横五一・五、界高二〇・一、

界幅一・八、一七字、白点・白書あり、符箋あり

(内題) 維摩□□

3 甲種写経 一六 大方広仏華嚴経 卷十五

(奥書) 以天平勝宝六年十一月十日沙弥尼真證令繕写奉

首欠、新補標、花欄撥型軸、黄紙六紙、縦二六・〇、横五六・四、界高一九・

四、界幅一・八、一四字(七字偈二句)、。八十華嚴

1 天平十二年御願経 一 呵鵬阿那含経他(凡例参照)

(願文卷末) 皇后藤原氏光明子奉為

尊考贈正一位太政大臣府君尊妣

贈従一位橘氏大夫人敬写一切経論及律

庄嚴既了伏願憑斯勝因奉資冥助永

庇菩提之樹長遊般若之津又願上奉

聖朝恒延福寿下及寮采共尽忠節又

光明子自發誓言弘濟沈倫勤除煩障妙

窮諸法早弊菩提乃至伝燈無窮流布天

下間名持卷獲福消災一切迷方会帰

覚路

天平十二年五月一日記

(七四〇)

首欠、新補標、紫檀撥型軸、黄麻紙三紙、縦二六・四、横四四・八、界高一九・五、界幅一・八、一七字

4 天平十二年御願経 一六 過去莊嚴却千仏名経 卷上

(奥書)

天平勝宝七歳^(七五五)正月十日從八位上行丹波員外目日置造蓑麻呂正

正八位上行大学少属内藏伊美吉全成正

大徳興福寺沙門慈訓證

首欠、新補標、紫檀撥型軸、黄麻紙一九紙、縦二六・四、横四六・二、界高一
九・四、界幅一・八、字数不定、願文あり、白墨書入あり

5 天平十二年御願経 一一三 深密解脫経 卷二・三・四・五 四卷

(奥書)

天平勝宝七歳^(七五五)九月三日從七位上守大学直講上毛野君立麻呂正

大徳元興寺沙門勝叡

大徳沙門了行

大徳沙門尊応

業了沙門法隆

[卷二] 原標、紫檀撥型軸、黄麻紙一九紙、縦二六・四、横四五・五、界高一

九・七、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆

・符箋あり

(内題) 深密解脫経聖者功德林菩薩問品第七 卷二

[卷三] 原標、紫檀撥型軸、黄麻紙一九紙、縦二六・四、横四五・五、界高一

九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆

・墨書符箋あり

(内題) 深密解脫経聖者弥勒菩薩問品第九 卷三

[卷四] 原標、紫檀撥型軸、黄麻紙一八紙、縦二六・七、横四六・一、界高一

九・七、界幅二・〇、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、墨書

小符箋あり

(内題) 深密解脫経弥勒菩薩問品之二 卷四

[卷五] 旧標、紫檀撥型軸、黄麻紙一八紙、縦二六・五、横四五・五、界高一
九・七、界幅二・〇、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、墨書

符箋あり

(外題) 深密解脫経卷第五 (宗性筆)

(内題) 深密解脫経聖者觀世自在菩薩問品之二 卷

6 天平十二年御願経 一一五 持心経 卷三

(奥書) 5 天平十二年御願経 一一三号(前掲)に同じ

原標、紫檀撥型軸、黄麻紙二五紙、縦二六・七、横四六・一、界高一九・七、

界幅一・八、一七字、願文あり、朱筆書入・墨書符箋あり

(内題) 持心梵天経論家品第八 三

7 天平十二年御願経 一一七 等集衆徳三昧経 卷下

(奥書) 5 天平十二年御願経 一一三号(前掲)に同じ

新補標、紫檀撥型軸、黄麻紙一九紙、縦二六・四、横四五・八、界高一九・七、
界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆校合・墨書

符箋による校合あり

8 天平十二年御願經 一一九 広博敵浄不退転輪經 卷二・三・四・五

・六 五卷

(奥書) 5 天平十二年御願經 一一三号(前掲に同じ)

[卷二] 新補標、紫檀撥型軸、黄麻紙一七紙、縦二六・七、横四六・一、界高一九・七、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆書入・墨書符箋あり

(内題) 仏説広博敵浄不退転輪經卷第二

(卷末紙背) 日置千長正了
(一枚)

[卷三] 原標、紫檀撥型軸、白麻紙一八紙、縦二六・五、横四六・一、界高一九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、墨書符箋あり

(内題) 仏説広博敵浄不退転輪經卷第三

(尾題) 広博敵浄経卷第三

[卷四] 首欠、旧標、紫檀撥型軸、黄麻紙四紙・白麻紙一〇紙、縦二六・四、横四五・八、界高一九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、墨書符箋あり

(外・尾題) 広博敵浄経卷第四

(卷末紙背) 校田辺

[卷五] 旧標修補、紫檀撥型軸、黄麻紙一五紙、縦二六・九、横四六・一、界高一九・七、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆書入・墨書符箋あり

(内題) 仏説広博敵浄不退転輪經卷第五

(尾題) 広博敵浄経卷第五

(卷末紙背) 置千長正了

[卷六] 旧標修補、紫檀撥型軸、黄麻紙一七紙、縦二六・五、横四五・八、界高一九・五、界幅一・八、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆書入

・墨書符箋あり

(内題) 仏説広博敵浄不退転輪經卷第六

9 天平十二年御願經 一一八 分別縁起初勝法門經 卷下

(奥書)

天平勝宝七歳十月十四日從七位上守大学直講上毛野君立麻呂正

大徳元與寺沙門勝叡

大徳沙門了行

大徳沙門尊応

業了沙門法隆

旧標、旧軸(軸端新補)、黄麻紙一三紙、縦二六・四、横四五・八、界高一九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大/寺印」あり、朱筆書入あり

(内題) 分別縁起初勝法門經卷下

10 天平十二年御願經 一一四 大集月蔵分 卷一・二・四・五・六・七

・九 七卷

(奥書) 天平勝宝七歳十月十七日正八位下守少内記林連広野正

大安寺沙門琳琳読

沙門敬明 沙門玄蔵 沙門環忍 沙門行脩證

〔卷一〕 旧標、紫檀撥型軸、白麻紙二〇紙、縦二六・七、横四五・一、界高一
九・七、界幅二・〇、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書
符箋あり、朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二初品〔朱筆、以下同〕「卷一」

〔卷二〕 旧標、旧軸〔軸端新補〕、白麻紙二六紙、縦二六・四、横四五・五、界
高一九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、
墨書符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二魔王波旬詣仏所品第二「卷二」

〔卷四〕 旧標、紫檀撥型軸、白麻紙一九紙、縦二六・七、横四五・五、界高一
九・七、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書
符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二令魔得信樂品第六「卷四」

〔卷五〕 旧標、紫檀撥型軸、黄麻紙二四紙、縦二六・五、横四六・一、界高一
九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書
符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集〔經大藏〕□□分第十二諸惡〔鬼神〕□□得救〔信品〕□□

〔卷末紙背〕 「一校令貴所々誤」 「二校大伴」

〔卷六〕 原標、紫檀撥型軸、黄麻紙二三紙、縦二六・五、横四五・五、界高一
九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書
符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二諸惡鬼神得敬信品第十八之下「卷六」

〔卷七〕 旧標、紫檀撥型軸、黄麻紙二九紙、縦二六・五、横四五・五、界高一
九・八、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書

符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二諸魔得敬信品第十「卷七」

〔卷九〕 原標、紫檀撥型軸、黄麻紙三〇紙、縦二六・五、横四六・一、界高一
九・七、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書
符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 「経月蔵分第十二分布閻浮提品第十七」 「卷九」

11 天平十二年御願経 一一四 大集月蔵分 卷三・八 二卷

〔奥書〕 天平勝宝七歳十月十七日正八位下守少内記林連広野正〔七五五〕

大安寺沙門琳琳読

〔卷三〕 新補標、紫檀撥型軸、白麻紙二六紙、縦二六・四、横四五・五、界高
一九・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨
書符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二本事品第四「卷三」

〔卷末紙背〕 「一校令貴三字誤」 「二校大伴」

〔卷八〕 原標、紫檀撥型軸、黄麻紙三二紙、縦二六・七、横四六・一、界高一
九・八、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書
符箋・朱筆書入あり

〔内題〕 大集経月蔵分第十二忍辱品第十六「卷八」

12 天平十二年御願経 一一六 大方広十輪経 卷一・六 二卷

〔奥書〕 天平勝宝七歳十月十七日正八位下守少内記林連広野正〔七五五〕

大安寺沙門善證誦

沙門敬明 沙門玄藏 沙門琳琳 沙門環忍 沙門行脩證

〔卷二〕 首欠、新補標、紫檀撥型軸、黃麻紙一七紙、縱二五・六、横四五・八、

界高一九・四、界幅一・八、一七字、願文あり、墨書符箋・朱筆書入あり

〔尾題〕 十輪經卷第一

〔卷六〕 原標、紫檀撥型軸、黃紙一六紙、縱二六・二、横四六・一、界高一九

・五、界幅一・八、一七字、願文あり、朱方印「東大／寺印」あり、墨書符

箋・朱筆書入あり

〔内題〕 仏説大方広十輪經□輪品第八 卷第六

〔尾題〕 十輪經卷第六

13 神護景雲二年御願經 一 大乘悲芬陀利經卷三・四 二卷

〔願文卷末〕 維神護景雲二年歲在戊申五月

十三日景申弟子謹奉為

先聖敬写一切經一部工夫之疋

敵畢矣法師之転説尽焉伏願橋

山之風輅向蓮場而鳴鑾汾水之龍

驂泛香海而留影遂披不測之了

義永証弥高之法身遠暨存亡傍

周動植同效景福共沐禪流或變

桑田敢作頌曰

非有能仁誰明正法惟朕仰止給脩

慧業權門利広兮拔苦知力用妙兮

登岸敢対不居之歲月或垂罔極之

頌翰

〔卷三〕 旧標、赤密陀撥型軸、黃麻紙二七紙、縱二八・〇、横五六・四、界高

二三・二、界幅二・四、一七字、白墨校合あり

〔内題〕 大乘悲分陀利經離諍王受記品第六 第三

〔卷四〕 黃麻紙二九紙、体裁・法量等卷三に同じ

〔内題〕 大乘悲分陀利經十千人受記品第十 第四

14 神護景雲二年御願經 二 如来示教勝軍王經

〔願文卷末〕 13 神護景雲二年御願經 一 大乘悲芬陀利經卷三・

四に同じ

新補標、白密陀撥型軸、黃麻紙九紙、縱二七・七、横五七・〇、界高二三・三、

界幅二・四、一七字

15 神護景雲二年御願經 三 優婆塞戒經卷二 一卷

〔願文卷末〕 13 神護景雲二年御願經 一 大乘悲芬陀利經卷三・

四に同じ

旧標、白密陀撥型軸、黃麻紙一四紙、縱二七・九、横五七・二、界高二三・九、

界幅二・四、一七字

〔標見返〕 馬道

〔内題〕 優婆塞戒經脩三十二相業品第六 二

16 甲種写経 一九 観仏三昧経 卷十

(奥書) 延暦十七年^(七九)歲次 九月八日 戊寅

旧標、紫檀撥型軸、白紙一六紙、縦二八・二、横五六・〇、界高二・二、界幅二・一、一七字

(内題) 佛説觀佛三昧海經念七佛品第十

(外題) 觀佛三昧海經卷第十

(内題右下) 金光明寺僧慚忠奉写為父母

19 甲種写経 三〇 誠実論經 卷十四

(白書奥書) 天長五年七月一日一往聽了^(八二八)

首欠、新補標、黒漆棒軸、薄手黄紙一九紙、縦二八・四、横五二・〇、界高二・〇、一、界幅一・八、一七字、朱方印「詮傳/燈印」あり、白点・白書あり

20 甲種写経 七七 金剛般若經讀述 卷下

(白書奥書) 以嘉祥四年四月廿八日於崇福寺聽了 講師元興寺

旧標、新補軸、白紙三三紙、縦二七・八、横五四・八、界高二・八、界幅一・八、一九字・二〇字、白点・白書あり

17 甲種写経 一九 観佛三昧経 卷七

(奥書) 延暦十七年^(七九)歲次 九月十二日 戊寅

新補標、紫檀撥型軸、白紙一六紙、縦二七・八、横五五・六、界高二〇・九、界幅二・三、一七字

(内題) 佛説觀佛三昧海經觀四威儀品之二七

(尾題) 觀佛三昧海經卷第七

(内題右) 金光明寺僧慚忠奉写為

18 甲種写経 二〇 法華決釈記 卷四

(奥書) 天長二年八月廿二日寫了^(八二五)

^(別筆) 一校真足十月二日

首欠、新補標、黒漆棒軸、淡墨紙四四紙、縦二六・九、横五三・五、界高二三・六、界幅一・八、二一字、朱点あり

21 甲種写経 八九 甲種古写経断簡 大方広仏華嚴経 卷九

(朱書奥書) 貞觀十九年三月廿五日一校了 儀遠^(八七七)

首欠、新補標・軸、丁字色紙九紙、縦二三・八、横四五・五、界高一九・八、界幅一・八、一七字、白点・白書・朱筆書入あり。六十華嚴

22 乙種写経 一 金剛般若經疏 卷上

(奥書) 元慶六年七月十七日書了^(八八二)

首欠、新補標、黒漆棒軸、白紙二八紙、縦二九・〇、横五三・七、白界、界高二・七、界幅二・〇、二一字、朱筆書入あり

23 因明正理門論注 卷三・四 (甲種写経) 五七 法華略抄卷三紙背 第

三十八紙(第十紙)

(奥書) 以寛平五年三月中旬上人本写□已了

[法華略抄卷三] 首尾欠、新標、黒漆棒軸、白紙三七紙、縦二六・八、横五五

・〇、界高二三・七、界幅二・〇、二字、朱・墨書入あり

(第一紙端裏) 東大寺明一撰

法花略抄 馬道

(尾題下第三十紙) [朱筆]「校了」教

[因明正理門論注] 卷三首欠・卷四首尾完、無界、一行字数不定

(卷三尾題・卷四首題第三十六紙背)

因明正理門論注卷第三

因明正理門論注卷下末 沙門宗撰

(卷四尾題第十紙背)

因明正理門論注卷第四

(白書奥書) 此上五卷正曆三年五月十五日点了

新補標、朱頂軸、黄麻紙四三紙、縦二七・九、横五八・五、界高二三・九、界

幅一・四、二五字、五卷合併、卷首に序を付す、白墨訓点あり

(外題) 大乘大集地藏十輪經 自一至五 五卷在之

(卷第一卷尾 訳場列位)

(應) (六五) 永徽二年正月廿三日於長安大慈恩寺翻經院三藏法師玄奘奉 詔訳

大慈寺沙門大乘光筆 受 法海寺沙門神昉筆受

大捨持寺沙門道觀筆 受 蒲洲普救寺沙門行友證文

普光寺沙門道智證文 汴洲真諦寺沙門玄忠證文

弘福寺沙門明清正字 大捨持寺沙門玄応正字

弘福寺沙門文脩證義 蒲洲栖霞寺沙門神泰證義

廓洲法講寺沙門道深證義 宝昌寺沙門法祥證義

羅漢寺沙門慧貴證義 実隆寺沙門道明證義

大捨持寺沙門道洪證義 大慈恩寺沙門玄奘奉 詔訳

24 甲種写経 八〇 弁中辺論 卷三

(奥書) 以天曆八年四月廿八日開合了 講師興福寺僧都 空請僧都

新補標、黒漆棒軸、黄紙一二紙、縦二七・一、横五四・五、界高二〇・〇、界

幅一・八、一七字、白書及び白と朱を混ぜた筆の校合あり

26 甲種写経 一三 天平経断簡 卷四 一切経音義卷六

(第三紙行間書入)

長元二年維摩会短籍

初日源真 初問濟慶已講 遣虚存実重 法差別相違也

第二問良真 章云四地以前真俗別觀義 一因違三比量也

第三問有慶 転何法得大円鏡也 以有実実為因有何過

第四問長範 微細随眠脉 断云若尔成不定因性義

25 唐経 一 大乘大集地藏十輪經 卷一・二・三・四・五 一卷

(五卷合本)

第五問延幸 章云加證自證分云々何故加之 竹云若以同異雖躰不无義也
第二日誓源

東大寺快久哥賢聖義 (疏カ)
充也

首尾欠、新補標、黒漆撥型軸、白紙一二紙、縦二八・四、横四九・八、界高二
四・四、界幅一・八、一六〇二字

27 寛治版 一 成唯識論 卷十

(刊記卷末)

興福伽藍字衆諸徳為
興隆仏法利衆有情各
加随分財力課工人鑲
唯識論一部十卷模寛
(二〇八八)
治二年三月廿六日畢
功願以此功德廻向諸
群類往生内院聞法信
解證唯識性速成仏道

模工僧観増

墨版、卷子装、新補標・軸、白紙一六紙、縦二五・三、横五四・〇、界高二〇
・四、界幅二・〇、一七字

28 乙種写経 一〇九 泥梨経

(奥書) 「校了」^(別筆)

(二〇九八)
承徳二年三月十日未時許於比叡山西塔院写畢
四天王寺一切経之内 僧真嚴

旧標、黒漆割軸、黄紙二三紙、縦二六・〇、横五一・二、界高一九・七、界幅
一・九、一七字

(外・内題) 泥犁経一卷

29 乙種写経 三 大方広仏華嚴経 卷二十

(奥書) 長治二年四月十九日書了 「以他本一交了」^(別筆)

新補標、黒漆塗棒軸、黄紙十八紙、縦二七・九、横五五・〇、界高二〇・七、
界幅一・九、一七字。四十華嚴

30 甲種写経 三八 大智度論 卷七十九

(奥書) 永久元年八月九日於大毗盧舎那寺書了

旧標、黒漆塗棒軸、黄紙二二紙、縦二七・〇、横五三・四、界高二〇・九、界
幅一・九、一七字

31 乙種写経 二四 中論 卷一甲

(奥書) 永久五年丁酉十一月十七日東大寺存先覚抄中處也

為他生奉了然可見故自九月十五日令写之奉書了

(『書陵部紀要』27に図版あり)

旧標、新補軸、黄紙二〇紙、縦二八・四、横寸法不定、界高二五・一、(第四
紙以後二〇・七)、界幅一・七(第四紙以後無界)、十三字、付序

(内題) 中論序 叙法師造

(尾題) 中論觀經卷第一

(標見返識語) 付屬助覺竟

32 乙種写経 二二三 大般若経 卷二百十九

(奥書) 〔元永貳年^(二一九)初月日為法縁助成書写了 円城房勝鑒

新補標、黒漆塗棒軸、黄紙一九紙、縦二四・五、横四四・〇、界高二〇・一、界幅一・八、一七字

(内・尾題) 大般若波羅蜜多経卷第二百一十九

33 甲種写経 五五 阿毘達磨俱舍論 卷七

(奥書) 大治二年十一月十六日朝点了

新補標・軸、白紙一四紙、縦二六・三、横四九・五、界高二〇・一、界幅一・八、一七字、朱点・朱筆書入あり

(内題) 阿毘達磨俱舍論卷第七 分別根品第二之五

(尾題) 說一切有部俱舍論卷第七

34 甲種写経 二二 法華略讚歎

(奥書) 以長承三年^(二三四)初穉中旬於仁和寺池上亭詔門弟令

書写之抑香象大師伝近代雖多流行既往之比但此一本也文勢非唐家筆又別本歟類部歟依之志
学之時間先師延快已講之處被示云小小之比於行縁五

師室從大卷中抄写之云々予聞此說久尋彼房敢不得件

書麟腸不佞多送寒暑之間當寺伝法会衆之中有一才

子從故仁慶得業後房伝得教軸法文披閱之處始得此

書仍為留本宗令書写了但内題外題俱無又不注作者之

名只以古筆標紙表迫統目書法花略讚歎来菜尋之

又以十二月十五日為大師遷化之日本寺并私門展講經

席立豎義床予竊檢其未得其文往年之比問本寺

好學輩之慮一兩答云見行伝云十二月中云々再披伝文其

說何在新來教本又以如斯博覽後賢乞也決之

東大寺花叡宗良覺記之

新補標、素木棒軸、白紙三六紙、縦三〇・〇、横五五・七、界高五三・五、界幅二・二、一九〇二二字、朱筆書入あり、尾題なし

35 乙種写経 四 俱舍論 卷二十三

(奥書) 久安四年五月一日巳時書写了

於仁和寺僧房了

(追筆) 午時許
「同七月廿二日一交了」

〔朱書通巻二一四九
同五年二月廿二日句了
同廿七日一交了〕

粘葉裝、表紙共紙、白紙二四紙、縦二五・〇、横一四・三、白界、界高二〇・四、界幅一・六、一八字、朱点あり。図版、『書陵部紀要』25

(外・内題) 阿毘達磨俱舍論 卷廿三

〔尾題〕 說一切有部俱舍論卷第廿三

36 甲種写経 三二 大乘義章 卷九

〔奥書〕 仁平四年九月十九日調卷了
(二一五四)

首欠、新補標・軸、黄紙四六紙・白紙三紙、縦二九・〇、横不定、界高二三・八、界幅一・八、字数不定、紙背に人名墨書・花押あり

37 乙種写経 五 異部宗輪論 其二

〔奥書〕 平治元年七月十三日醍醐寺書寫了
(二一五九)

筆師僧東大寺醍醐寺沙門叡詮

新補標、素木棒軸、白紙七紙、縦二七・九、横五一・四、界高二〇・二、界幅一・九、一七字。凶版、『書陵部紀要』25

〔標見返識語〕 藏円之本也

38 乙種版経 三 成唯識論 卷四

〔奥書〕 〔追筆〕 興福寺住僧 最信

興福寺住僧最信

長寛元年十一月廿一日僧 也
(二一六三)

興福寺住僧 〔朱筆〕 最信之本也

墨版、卷子装、旧標、黒漆棒軸、白紙一九紙、縦二六・三、横五一・九、界高二〇・六、界幅一・九、一七字、墨印判あり、朱点・墨点あり

39 乙種写経 二三 大般若経 卷五百八十七

〔奥書〕 願以此功德普於一切

我等与衆生皆俱成仏

於此卷者為応妻

如意尊靈離垢得達

長寛三年 書
(二一六五)

〔新補標・軸、黄紙一六紙、縦二五・五、横五四・三、界高二一・二、界幅一・九、一七字

〔内・尾題〕 大般若波羅蜜多経卷第五百八十七

40 乙種写経 六 探玄記 問答記

〔書出〕 永万二年四月十七日於尊勝院
(二一六六)

講問答五箇日修之 〔奥書と同筆〕

〔奥書〕 五ヶ日之間天晴日静無事行了講衆十八人之

外 樹朗擬講行祐得業雖為他宗依為宿学

客ニ請之且遂去年之例也

粘葉装、表紙共紙、白紙一六紙、縦三一・四、横二七・七、無界、字数不定

〔外題〕 宗卅講問答記 探玄記第五卷 尊勝院

〔裏表紙〕 自永万二年至文永十二年 満百年当百十年
(二一七五)

41 乙種写経 五〇 阿毘達磨大毘婆沙論 卷十四

〔奥書〕 仁安三年六月十九日於白川書寫竟
(二一六八)

旧標、黒漆朱頂割軸、白紙一四紙、縦二六・七、横五四・七、界高二〇・三、
界幅一・八、一七字、符箋あり。図版、『書陵部紀要』28

(尾題) 説一切有部發智大毘婆沙論卷第十四

42 乙種写経 一四七 弥勒菩薩所問經論 卷二

(奥書)

(別筆)
「交了」

(二六八)
仁安三年七月日書了

旧標、黒漆朱頂割軸、淡黄紙二五紙、縦二六・二、横五〇・〇、界高二〇・一、
界幅一・九、一七字、梵字丸墨印あり

43 乙種写経 八 華嚴長者問仏那羅延經

(奥書)

(別筆)
「交了」

(二六八)
仁安三年七月廿九日書了

新補標、素木棒軸、白紙二紙、縦二五・七、横四六・八、界高二〇・〇、界幅
一・九、一七字

(外・内題) 華嚴長者問仏那羅延力經

(尾題) 大華嚴長者問仏那羅延力經

44 乙種写経 一〇八 正法念処經 卷二十五

(奥書)

(二六八)
仁安三年八月三日卯尅一校了

旧標、黒漆朱頂割軸、白紙一六紙、縦二六・二、横五五・六、界高一九・九、
界幅一・八、一六・一七字

(内題) 正法念処經觀天品之四 卅三天初 卷廿五

45 乙種写経 七 普曜經 卷七

(奥書)

(二六八)
仁安三年八月七日書了丹洲桑田郡弘瀬金蓮寺住僧(花押)

旧標修補、黒漆朱頂棒軸、黄紙二二紙、縦二五・六、横四五・八、界高二〇・
〇、界幅一・九、一七字、各紙に梵字印あり

(内題) 普曜經觀樹品第廿一 卷七

46 乙種写経 七 普曜經 卷四

(奥書)

(二六八)
仁安三年八月廿四日巳時許書了求法沙門寛慶

旧標修補、黒漆朱頂棒軸、白紙一六紙、縦二五・六、横五一・五、界高一九・
九、界幅一・九、一七字、各紙に梵字印あり

(内題) 普曜經出家品第十二 卷四

47 乙種写経 九 衆經目錄 卷二

(奥書)

(二七三)
承安元年三月廿日奉書了

(別筆)
「交了」

僧義俊

旧標修補、黒漆彈頭棒軸、白紙一五紙、縦二五・四、横四九・九、界高一九・
八、界幅一・八、字数不定。図版、『書陵部紀要』25

48 乙種写経 一〇 大狂敵論 卷九

(奥書)

(二七三)
承安三年癸巳三月十八日申時書了

新補標、黒漆朱頂割軸、白紙二四紙、縦二五・三、横五〇・三、界高一九・八、
界幅一・八、一七字

49 乙種写経 一八二 阿毘曇毘婆沙論 卷十八

(奥書) 承安三年四月廿日書写了
(一七三)

旧標、黒漆朱頂割軸、白紙一八紙、縦二五・五、横五三・二、界高一九・五、
界幅一・九、一七字、符箋あり

(内題) 阿毘曇婆沙論雜捷度愛敬品下 十八

(尾題) 婆沙論卷第十八

(卷末紙背) 女女論

(標見返識語) 校了

50 乙種写経 一八二 阿毘曇毘婆沙論 卷十六

(奥書) 承安三年四月廿二日書写了
(一七三)

一校了

旧標、黒漆朱頂割軸、白紙一九紙、縦二五・四、横五一・五、界高一九・四、
界幅一・九、一七字

(内題) 阿毘曇毘婆沙論雜捷度愛敬品第四 卷第十六

(尾題) 婆沙論卷第十六

(標見返識語) 校了

51 乙種写経 一八二 阿毘曇毘婆沙論 卷十七

(奥書) 承安三年四月廿四日書写了
(一七三)

旧標、黒漆朱頂割軸、白紙二八紙、縦二五・五、横五〇・二、界高一九・五、
界幅一・九、一七字

(内題) 阿毘曇婆沙論雜捷度愛敬品中 十七

(尾題) 婆沙論卷十七

(標見返識語) 一校了

52 乙種写経 一一 義章問答 卷三

(奥書) 養和二年二月廿六日書了
(一八二)

新補標、黒漆朱頂割軸、白紙一八紙、縦二九・三、横五三・四、無界、字数不
定

(内題) 義章問答新舊要 第三

(標識語) 頼超之

53 乙種写経 一一 義章問答 卷五

(奥書) 養和二年三月十八日於東大寺北院書了 頼超
(一八二)

新補標、黒漆棒軸、白紙一三紙、縦三〇・一、横四八・六、無界、字数不定
。図版、『書陵部紀要』25

(内題) 義章問答新舊要 第五

(標識語) 頼超之